

毎週木曜日「やまとの神さま」

勝手神社（吉野町）

令和5年（2023）3月9日

やまとの神さま 勝手神社（吉野町）
 吉野山入り口、社殿復興願う
 奈良まほろばソムリエの会副理事長
 小野哲朗氏文

役行者が開山して以来1300年以上、幾多の歴史の残影や悲話が残る吉野山。その町並みの中、蔵王堂から南へ。上千本と如意輪寺に向かう道が二手に分かれる手前に、勝手神社があります。「勝手」とは吉野山の入り口という意味で、また勝負事や戦いの神としても信仰されてきました。

吉野に隠れ住んだ大海人皇子（後の天武天皇）がこの神前で琴を奏でたところ、五色の雲の中から天女が現れ、袖を五度ひるがえして舞い、それが吉祥のしるしと伝えられています。この舞が宮中の「五節（ごせち）の舞」の起源とされ、大嘗祭（だいじょうさい）や新嘗祭（にいなめさい）でも舞われます。

また鎌倉時代初期、源義経と別れた静御前が、吉野衆徒（しゅと）に捕らえられてこの神前で舞ったという伝承があり、境内には「静御前の舞塚」が残り、芸事の神として信仰されています。

社殿が平成13年（2001）9月不審火で焼失
 早期復興・再建が望まれる。

奈良

すっきり ワイドに 地域面



吉野山入り口 社殿復興願う

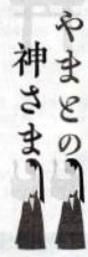
役行者が開山して以来1300年以上、幾多の歴史の残影や悲話が残る吉野山。その町並みの中、蔵王堂から南へ。上千本と如意輪寺に向かう道が二手に分かれる手前に、勝手神社があります。「勝手」とは吉野山の入り口という意味で、また勝負事や戦いの神としても信仰されてきました。

勝手神社（吉野町）
 入皇子（後の天武天皇）がこの神前で琴を奏でたところ、五色の雲の中から天女が現れ、袖を五度ひるがえして舞い、それが吉祥のしるしと伝えられています。この舞が宮中の「五節（ごせち）の舞」の起源とされ、大嘗祭や新嘗祭でも舞われます。

また鎌倉時代初期、源義経と別れた静御前が、吉野衆徒に捕らえられてこの神前で舞ったという伝承があり、境内には「静御前の舞塚」が残り、芸事の神として信仰されています。

社殿が平成13年（2001）9月不審火で焼失、早期復興・再建が望まれる。

副理事長 小野哲朗



（住所）吉野町吉野山2380-4
 （祭神）天之忍穂耳命、大山田命、久々能知命、木花咲耶姫命、荷虫神、摩野姫命
 （電話）0746-323024（吉水社）
 （交通）近鉄吉野駅下車、吉野山口から徒歩約15分
 （駐車場）境内自田、駐車無料
 （開祭）0746-323024（吉水社）



焼失前の社殿
 写真提供：成瀬匡章氏